

阿久さん作「富士山だ」CDに

07年8月に70歳で亡くなった作詞家の阿久悠さんが、富士山を愛する心をテーマに書いた「富士山だ」のCD発売準備が進んでいる。歌手の加藤登紀子さんが作曲し、数々のヒット曲を手がけてきた酒井政利さんがプロデュース。関係者は世界文化遺産の候補に申請された富士山の「応援歌」にしたいと期待をこめている。

【野島康祐】

富士山が好きだった阿久さんは06年まで静岡県伊東市に在住。04年末に「富士が好き」と題する詞を書いた。

「富士山だ」(一部)
朝に見ても 富士は富士
夕べに見ても 富士は富士
笑って見ても 富士は富士
涙で見ても 富士は富士

富士山の環境保全に向け活動してきたNPO法人「グラウンドワーク三島」(静岡県三島市)の渡辺豊博事務局長が06年、音楽プロデューサーの酒井さんに「富士山の応援歌になるような曲ができないか」と相談。酒

世界遺産へ「応援歌に」

井さんの依頼で加藤さんが曲を作り、06年夏に「富士山だ」と題を改め完成した。しかし阿久さんの死去や資金不足などが重なり、CDは製作されなかった。

ド奏者のルイイさんによるユニット「ムーン・リバー・ウォーカーズ」が約4分間の楽曲を歌う。CDの発売元は未定だが「富士山の日」の2月23日に間に合うよう準備が進んでいる。

世界文化遺産の候補に申請されたことで曲が改めて注目された。スローなバラード調とアップテンポなサンバ調がミックスされ、歌いやすいようアレンジ。ジャズ歌手の若生りえさんとキーボード

渡辺さんは「日本で一番高い山なのに、富士山を歌った歌は、意外と少ない。阿久さんの心がこもった歌として、多くの人に愛されてほしい」と話している。



阿久悠さん



加藤登紀子さん



渡辺豊博事務局長